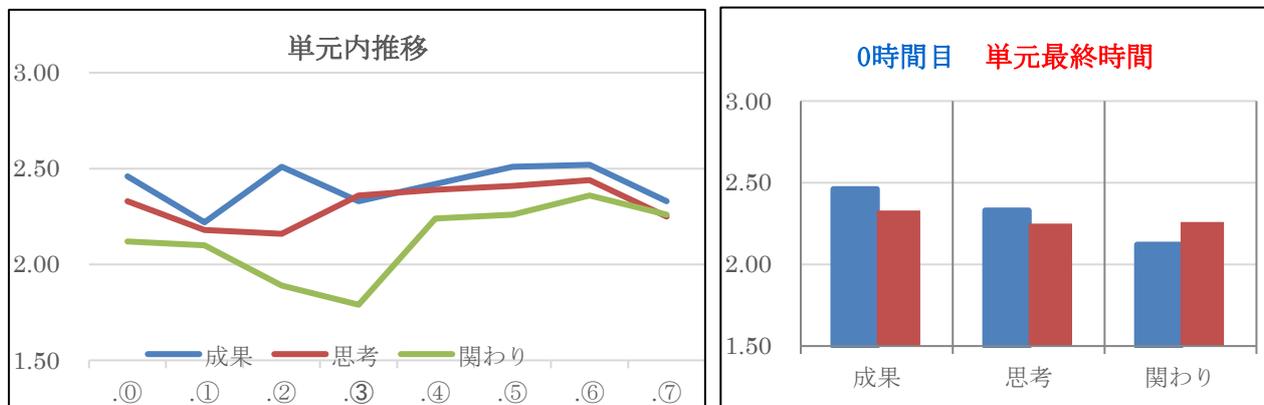


1 単元名 とびばこワールド せいはいをめぐせ!
(器械・器具を使った運動遊び・跳び箱を使った運動遊び)

2 児童の変容

(1) 情意面 (形成的授業評価をもとにした授業評価から) 男子15名 女子12名 計27名



- ・「成果」と「思考」は単元前よりも数値が低くなってしまった。単元の終わりに、目標とする技を開脚跳びに絞ってしまったため、上手く跳べなかった児童にとっては成果や思考することに繋がらなかったのだと考えられる。一方で、「成果」の数値に関しては単元の1時間目と比べて2時間目の数値が大幅に上がった。この理由として、体ならしの運動を行い出来た時の達成感や、ランドの各コースの動きやポイントを理解できたことで、これからの期待や喜びを感じる事が出来たのではないかと考える。
- ・「思考」の数値を見ると、各ランドのやり方やポイントを習得することに重点を置いた単元前半は低い数値だったが、ペアで友達の良いところを伝え合ったりする活動を取り入れる等、思考をはたかせることに重点を置いた単元中盤から後半は、高い数値となった。やはり、教師が意図的に思考させる場面を作り、児童が主体的に取り組めるように促していくことが大切であると再確認できた。
- ・「関わり」は単元前よりも単元最終時間の数値が高くなった。3時間目の数値が低かった要因としては、ランドの各コースのやり方やポイントを習得する時間が主であったため、教師が意図的に関わりを促すことが出来なかったことであると考えられる。4時間目から単元の終わりにかけては、ペアでの伝え合いに重点を置いた授業であったため、教師のねらい通りに児童が主体的に関わり合いができたのではないかと考えられる。

(2) 技能面

	①馬跳び (グーパーゲーのでリズムよく跳ぶ。)			②かえるの足うち (腰の高い姿勢で2~3回足を叩く。)		
	できる	もう少し	できない	できる	もう少し	できない
単元前	20	5	2	12	10	5
単元後	23	4	0	16	7	4
	③踏み越し下り (片足) (2段の跳び箱を助走スピードを落とさず 一気に踏み越す。)			④開脚跳び (3段40cmの跳び箱に両足で踏み切り 体を起こして着地する。)		
	できる	もう少し	できない	できる	もう少し	できない
単元前	20	6	1	5	15	7
単元後	22	4	1	9	13	5

- ・単元前と比較して数値の上昇が見られる。開脚跳びが上手にできるためのポイントを意識した体ならしの運動 (グーパーゲーのリズムを意識した馬跳びや、着手・腕支持を意識したかえるの足うち等) を、毎時間行ったことが技能向上の一助となったと考えられる。また、リズム太鼓に合わせてたり友達と掛け

声を掛け合ったりしながら運動したことにより、体を動かすことを楽しみながら行えたことも技能向上に繋がったのではないかと考える。

- ・前学年で取り組んだ馬跳びは、全員ができるようになった。しかし、本単元を通してできるようになって欲しいと思っていた開脚跳びに関しては、思ったように数値が伸びなかった。要因としては、ランドのコースの一部として開脚跳びに取り組んでいたため、実質的に開脚跳びを練習する時間が足りなかったことが考えられる。単元計画を見直し、より狙った運動遊びに触れる時間を多くとれるように工夫するべきであったと考える。

(3) 思考面

問 開脚跳びを上手に跳ぶためには、どうしたらよいか。 (複数可)		
単元前		単元後
・踏み切りで「バンッ」と音をならす。	5	・手はパーで遠くに着く。 1 7
・跳び箱の奥を手で押す。	4	・手を着いて体を支える。 5
・おしりを上げる。	2	・大きくジャンプする。 3
・高く空に行くようにジャンプする。	1	・「キュッパッ」と足を開く。 3
・助走をつける。	2	・踏み切りは「ドンッ」と踏む。 3
・足を横に開く。	1	・力を「ふわっと」抜く。 2
・着地の時にぶれないこと。	1	・空を跳ぶようにジャンプする。 2
・グーパーグーでタイミングよく跳ぶ。	1	・着地は足を揃えて「ストン」。 2
・踏み切りを勢いよく跳ぶ。	1	・助走をつける。 2

- ・開脚跳びの技能ポイントをオノマトペで表す児童が増えた。授業の中で、技能ポイントを音で表す活動をしながらか学習を進めていったことで、児童にとって理解しやすかったのだと考える。
- ・単元前は、開脚跳びを上手に跳ぶためのポイントについての記述が全く書けなかった児童が、単元後はいなかった。これは、友達同士の見合いの中で擬音語を用いて伝えられていたことから、言葉にして相手に伝えることで、より開脚跳びの技能ポイントを定着させることができたのだと考える。

3 成果と課題

低学年のめざす姿

見合い、伝え合う活動を通して、自分のめあてに向かって繰り返し取り組む児童

【成果】

- ・開脚跳びのポイントを擬音語・擬態語で掲示したことで、友達同士の見合いが円滑に進んだ。常に掲示してあることにより、見合いの最中に何て声を掛けたら良いか分からなくなってしまっても、評価版の前に来て再確認することができる。実際にその姿が見られ、「〇〇さんはストンと着地できていたよ。」と声をかけることができていた。有効な手立てであると感じた。
- ・なるべく多くの児童がスムーズに見合いができるように、話型を用意し、評価版に掲示した。教室での授業でなかなか自分の意見を言葉にすることが難しい児童も、話型に当てはめることで容易に言葉にすることができた。相手に自分の意見を伝えることの喜びを感じられる有効な手立てであると感じた。また、学習カードも同様である。

【課題】

- ・ランド学習において、課題解決のための各コースのポイントを表示した評価版が必要だった。学習を進めていくにつれて、児童の楽しい気持ちが上がっていくと、運動遊びのやり方が適当になったり雑になったりしてしまった。各運動遊びのポイントを毎回確認しながら学習を進められるように、また、伝え合う活動を活発化させるためにも、ミニ評価版を作成したい。
- ・単元を通して同じペアでの活動をした。技能差があっても、お互いの出来ているポイントを見つけて見合うことができたと感じる。しかし、単元を通してずっと同じペアではなく、単元最後の開脚跳びに挑戦する時間は同じめあてをもつ者同士でペアを組むなどの変化をもたせることで、同じようなつまづきを抱えている友達と助言し合いながら取り組むことができるのではないかと、さらに学習への意欲が増して運動遊びの質の向上に繋がってくるのではないかと考える。